



CS-9134/9138/88A



ACS-1208A/1216A



CS-1708/1716



CS-1732A/1734A

富士通製サーバ「PRIMERGY」「PRIMEPOWER」と ATEN KVM スイッチ(ミッドレンジ)の接続検証結果報告書

ATEN ジャパン株式会社
技術サポート部

1. 検証概要

PRIMERGY シリーズと PRIMEPOWER との混在 OS 環境、および PS/2 と USB の混在インターフェイス接続による環境にて ALTUSEN (by ATEN) KVM スイッチと動作検証を実施致しました。

2. 検証期間

2007年1月10日～1月23日

2007年2月23日～3月8日

3. 検証装置

型番	概要
CS-9134/9138/88A	4 or 8 ポート PS/2 対応 KVM スイッチ
ACS-1208A/1216A	8 or 16 ポート PS/2 対応 KVM スイッチ
CS-1708/1716	8 or 16 ポート USB 対応 KVM スイッチ
CS-1732A/1734A	4 or 8 ポート PS/2・USB 対応 KVM スイッチ
UC-100KMA	USB コンバータ

4. サーバ構成

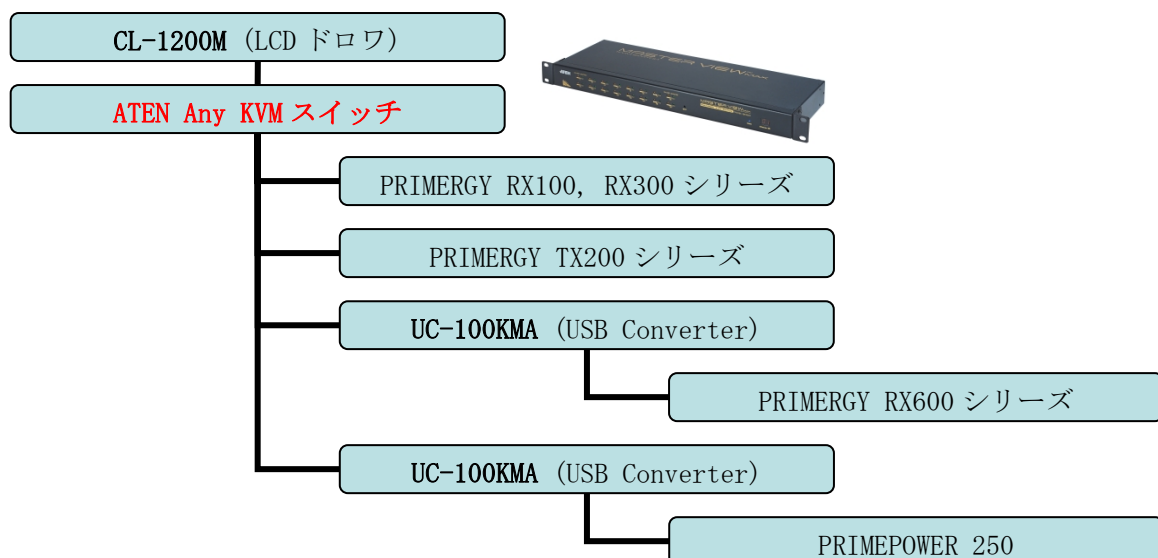
型番	OS
PRIMERGY RX100 S2	Windows Server 2003, Standard Edition (SP1)
	Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)
PRIMERGY RX100 S3	Windows Server 2003, Standard Edition (SP1)
	Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)
PRIMERGY RX300 S2	Windows Server 2003, Standard Edition (SP1)
PRIMERGY RX600 S3	Windows Server 2003, Standard Edition (SP1)
PRIMERGY RX600 S2	Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)
PRIMERGY TX200 S2	Windows Server 2003, Standard Edition (SP1)
PRIMERGY TX200 S3	Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)
PRIMEPOWER 250	Solaris 10 OS

5. 検証項目

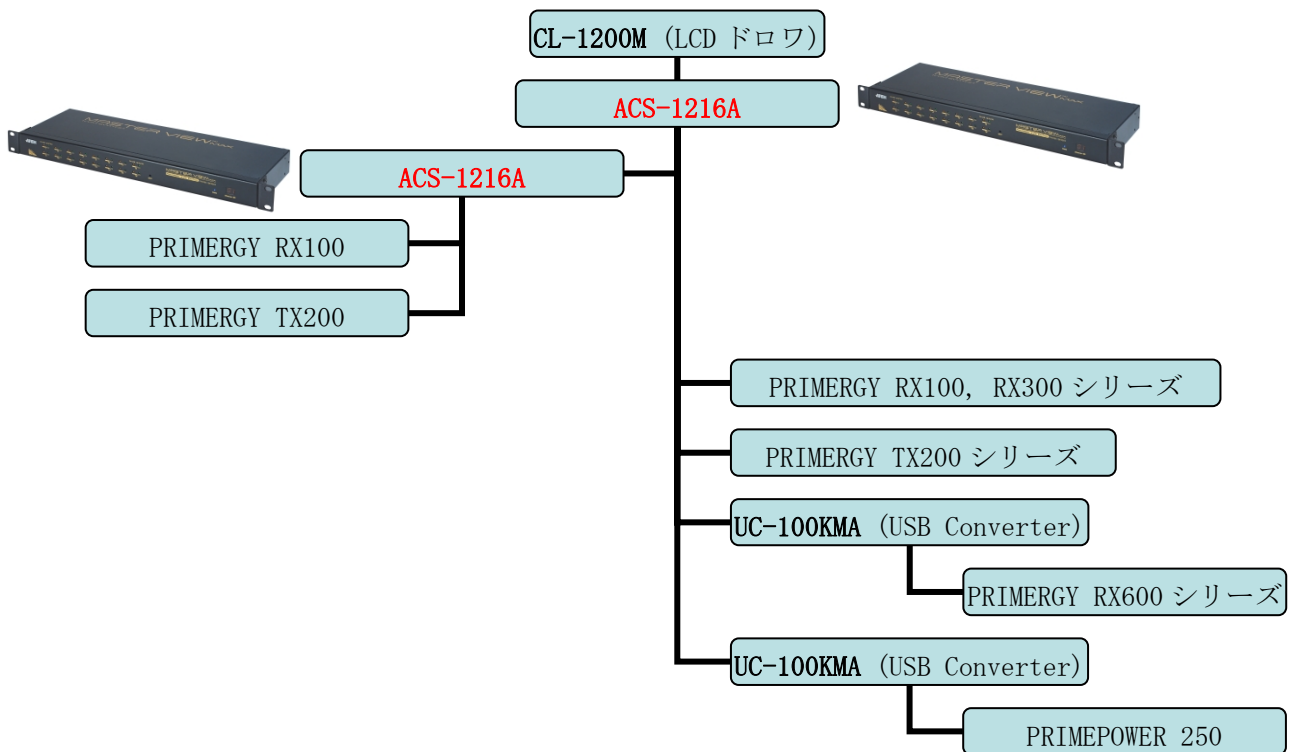
- A) コールドスタート時、ホットスタート時、リブート時、それぞれの動作確認
- B) 日本語キーボードのキーマップおよびキーコードの整合性
- C) マウス(タッチパッド)の動作確認
- D) Windows Server 2003、Red Hat Linux、Solaris 10 OS の OS 混在環境による動作確認
- E) サーバ側接続に USB 対応 KVM ケーブルもしくは USB コンバータを使用し正しくホットプラグ
- F) KVM デイジーチェーンおよびカスケード接続時の動作確認
- G) PS/2 と USB のインターフェイス混在環境による動作確認

6. 構成図

KVM 構成例(単体接続時)



KVM 構成例 (デイジーチェーンおよびカスケード接続時)



7. 接続方法

- CL-1200M(LCD ドロワ)と各 KVM スイッチ間は、ドロワ同梱 PS/2 対応 2L-5202P ケーブルを使用します。USB コンソールのみ機種は USB コンバータ (UC-100KMA) を使用します。
- KVM スイッチから各サーバ間は、PS/2 接続時と USB 接続時の二通りがあります。
PS/2 接続時は、PS/2 対応 KVM ケーブルにて接続します。
USB 接続時は、USB 対応 KVM ケーブルにて接続します。
PRIMEPOWER (Solaris 10 OS) との接続は、KVM 側が Sun に対応していない場合は PS/2 対応 KVM ケーブルと USB コンバータ UC-100KMA との組合せにて接続します。

8. 検証結果

A) コールドスタート時、ホットスタート時、リブート時、それぞれの動作確認

・コールドスタート時

サーバ側シャットダウン後に接続されている全てのケーブル類(電源ケーブル含む)を切り離し、しばらくの時間(数分~数十分)経過後に全てのケーブル類を接続し、スタート動作を数度繰り返しました。結果すべて正常動作しておりました。

・ホットスタート時

サーバ側に接続されている全てのケーブル類は接続されたまま、シャットダウンとスタート動作を数度繰り返しました。結果すべて正常動作しておりました。

・リブート時

サーバ側に対して、リブート動作を数度繰り返しました。結果すべて正常動作しておりました。

B) 日本語キーボードのキーマップおよびキーコードの整合性

テキストエディタを起動し、各キーを押し実際に入力される文字とキーマップが正しいことを確認致しました。

※補足：PRIMEPOWER と Sun 対応 KVM および USB コンバータ UC-100KMA を使用する際は、SET OPERATIONG SYSTEM を SUN に、KEYBOARD LANGUAGE を日本語に設定する必要があります。この設定は KVM 側 OSD 画面、UC-100KMA 側ホットキーより設定可能となっております。

Solaris 10 OS 側の独自キーに関しても上記設定により、ホットキーにより可能となっております。

C) マウス(タッチパット)の動作確認

サーバ側のデバイス認識にて、マウス(タッチパット)を OS 標準の「PS/2 互換マウス」または、「HID 互換マウス」として認識しておりました。マウス(タッチパット)の全ての動作において、正常動作を確認致しました。

D) Windows Server 2003、Red Hat Linux、Solaris 10 OS の OS 混在環境による動作確認

Windows Server 2003, Standard Edition (SP1)サーバ、Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)サーバ、および Solaris 10 OS サーバの混在環境による、それぞれの動作確認を致しました。どちらの OS 環境においても、正常動作を確認致しました。

E) サーバ側接続に USB コンバータ (UC-100KMA) を使用し正しくホットプラグ

RX100 S2/S3, RX300 S2, RX600 S2/S3, TX200 S2/S3 の各サーバ稼働時に USB コンバータを数度抜き差し致しました。サーバ側の USB ホットプラグが正常動作し、正しく再認識することを確認致しました。

※補足：Solaris 10 OS 側では、OS 稼働中にコンソールであるキーボード・マウスの抜き差しを許可している記述が見当たりませんでしたので、この検証は実施しておりません。

F) KVM デイジーチェーンおよびカスケード接続時の動作確認

各 KVM スイッチの 1 台構成時と、同機種の日ジーチェーンおよびカスケード接続による多段階構成にて、サーバ操作に対する動作確認を致しましたが、どちらの構成時も差異は無く、正常動作を確認致しました。

G) PS/2 と USB のインターフェイス混在環境による動作確認

KVM スイッチに対して、PS/2 対応 KVM ケーブル、USB 対応 KVM ケーブル、または PS/2 対応ケーブル + USB コンバータ (UC-100KMA)、それぞれを接続しサーバ操作に対する動作確認を致しました。PS/2 と USB の混在環境による構成時において、正常動作を確認致しました。

お問い合わせ先

ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-16-6 タツミビル 8F

Tel: 03-5323-7170 Fax: 03-5323-2181 Email: support@atenjapan.jp URL: www.atenjapan.jp